

令和7年度(第33回)職業能力開発論文コンクールの総評

職業能力開発論文コンクール審査委員長

1. はじめに

令和7年度職業能力開発論文コンクールは、「職業能力開発に携わる方等によって執筆された職業能力開発の実践等に係る論文のうち、多様で柔軟な職業能力開発の推進や障害者に対する職業能力開発等に関する優秀な論文を選定し、広く関係者等へ周知をすることによって職業能力開発関係者の意識の啓発を図り、もって職業能力開発の推進と向上に資すること。」を目的として、厚生労働省、中央職業能力開発協会、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構の共催により行われました。

2. 応募の状況

本年度は、合計59本の応募がありました。内訳は、都道府県立職業能力開発施設から12本、民間企業等から2本、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構立施設から45本となり、前回(令和5年度)と比べて全体で17本増加しました。所属別の増加本数をみると、都道府県立施設から7本、民間企業から1本、機構施設から9本の増加が見られました。

テーマ別では、「多様で柔軟な職業能力開発の推進」や「新たな技能・技術領域に必要な専門知識・技能・技術及び指導方法に関する調査・研究」が前回(令和5年度)と比べて増加しております。

3. 総評

応募論文からは、職業能力開発の充実に向けた関係者による積極的な姿勢と日々の努力が強く感じられ、大変感銘を受けました。

内容を拝見すると、技術的手法にとどまらず、地域連携、人材育成、キャリア形成支援、障害者支援、訓練手法、理念面の向上など、多岐にわたる取組が発展的に語られており、非常に意義深いものでした。

特に、厚生労働大臣賞(特選)を受賞した論文「CAD/CAMおよび三次元測定機を活用した実習教材における訓練効果の検証」は、受講生の声を通じて課題等を認識した上で、職業能力開発の現場における教材開発と訓練効果の検証を詳細に報告しており、教育的・技術的価値が極めて高いと評価できます。

従来の単発的な課題から一貫性を持たせた課題として、CAD/CAM、NC加工、三次元測定機を活用した総合課題「歯車ポンプ製作」を設定した点は、技能習得

の体系化に大きく寄与していると考えます。

併せて、設計から加工、検査まで行うことで、理論と実践を融合させた訓練手法となっており、単なる操作習得に留まらない高度な訓練効果を生み出しています。

加えて、受講生のアンケート結果からも、約 70%の受講生が「非常に理解できた、非常に向上した」と回答しており、教材の有用性が裏付けられています。技能習得が就職活動に役立つと考える受講生も多数を占めていることから、職業能力開発の目的達成に直結する成果といえます。今後、全国の職業能力開発施設での活用や応用が期待される論文となっています。

その他の多くの応募論文も、職業能力開発に関する内容として非常に興味深く、意義のある取組のものばかりでした。一方で、一部の論文については、背景、目的、考察、結論、引用、参考文献など、論文として求められる基本的な構成や体裁が十分に整っていないものも見受けられました。今後は、こうした論文の体裁面にもご留意いただくことで、より説得力のある内容となり、職業能力開発の推進に一層寄与するものになると考えます。

4. おわりに

今回の受賞論文を参考に、関係者の皆様にはさらなる研鑽を積み、職業能力開発の推進に向けた努力を継続していただければ幸いです。

次回のコンクールでは、より多くの方々から熱意あふれる論文を応募いただけることを期待し、総評といたします。

最後に、今回熱心にご応募いただいた皆様に敬意を表するとともに心より感謝申し上げます。